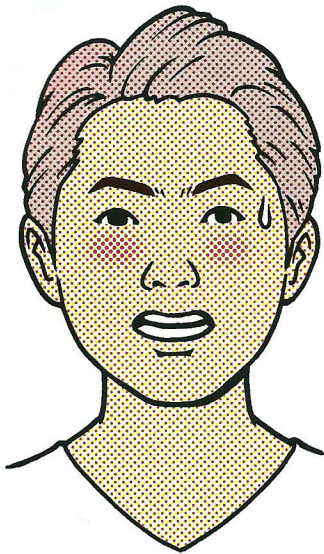


理容師は髪型と同様に、眉型をデザインする際にもいくつかの「似合わせの理論」を持っている。なかでも彼らがお客さまの眉を形づくるときに着目するのが、「顔立ち」と「生え方」だ。とくに「顔立ち」は、眉間の広さ、眉と目との間隔、顔のパーツの配置、そして目の大きさに応じて、視覚効果を応用しながらふさわしい眉をデザインしていく。その基本的な考え方を理解することは、自宅でのケアにも大いに役立つ。



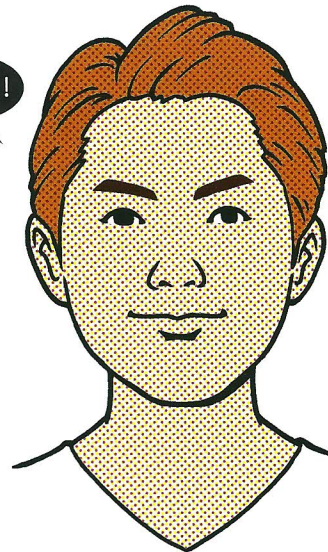
眉頭に産毛が残っていると、眉間がさらに狭く見えてしまう。また、眉尻の下がったへの字眉は、そこで視線が止まり、なおさら眉間の狭さが際立つのでNG。

NG!

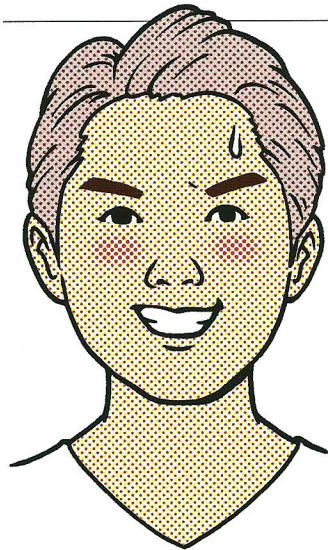
### Style 1 眉と眉の間が 狭いタイプ

眉頭は、小鼻と目頭を結んだ延長線上にあるのが理想とされる。しかし、眉と眉の間が狭いタイプは、眉頭がその延長線上より内側にあることが多いため、理容師は不要な産毛をカットし、場合によっては眉頭を少し薄くすることで眉間を広く見せていく。また、眉尻がへの字に下がっていると視線がそこで止まり、眉間の狭さが強調されてしまうので、眉尻に向かい少し上がった直線的な眉に整えることで、顔の外側へと視線を誘う。

Good!



眉と眉の間を少しでも広く見せるために、眉頭の不要な産毛はしっかりカットする。また、眉頭から眉尻に向かって、勢いのある一直線の眉とするべく、眉の下のラインを直線的にカットしていく。



直線的な勢いのある眉にしてしまうと、視線が眉尻の延長線上をそのまま流れ、顔の外側へと向かってしまう。結果として、眉間の広さを強調してしまうのでNG。

NG!

### Style 2 眉と眉の間が 広いタイプ

小鼻と目頭を結んだ延長線上よりも眉頭が外側に位置し、眉と眉の間が広いタイプは、ときに弱々しい印象を与えてしまうことも。そこで理容師は、眉頭をはっきりさせるために産毛も含めて決してカットはせず、フォームで毛流れを整えることで少しでも眉があるように見せていく。一方、眉尻を少し下げることにより、視線が外側で流れることなく内側で止まるようにし、視覚効果により眉間の広さを意識させないようにする。

Good!



眉頭はいじらず、産毛も残す。眉頭が外側にある分、眉尻は少し長めに残し、全体として眉が短くなることを避ける。眉の下のラインを少しカットし、さらに眉尻が下がるように角度をつけていく。

